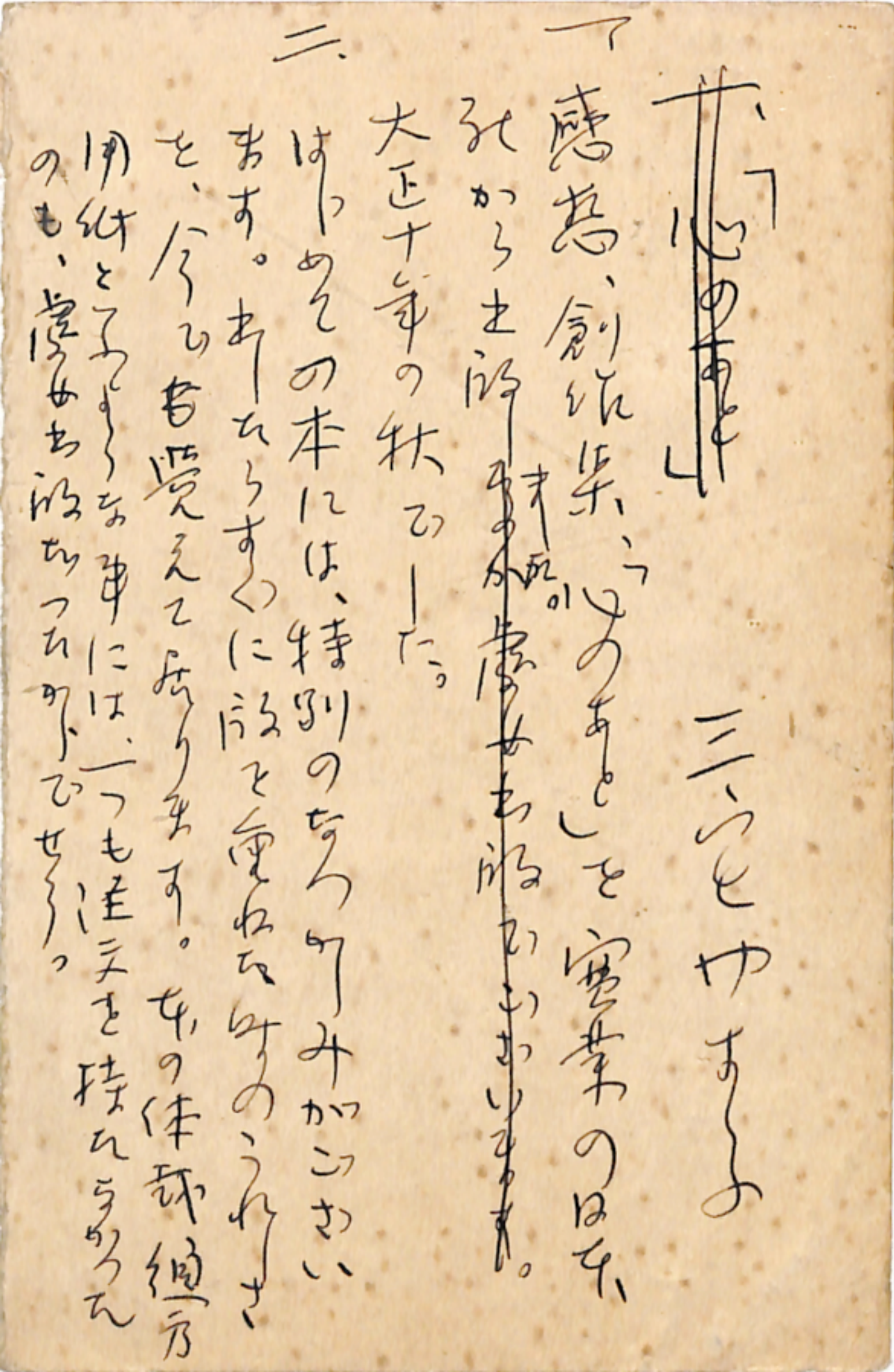

「心の花」

三、こもやまより

て感想、創作集、「みのあと」を寄贈のほか、
それから生活まで御心配いただきました。
大正十年の秋でした。

三、はじめその本には、特別のなつかしみがございます。おてらすくに居を定めてからのことを、今でも思い出します。その俳壇組方用紙とてつもない事には、一つも注文を持ち込まれなかったのも、皆様御心遣いの賜でせう。